



じりっ「自律と自立」

指 宿 高 等 学 校
進路指導部 第 3 号
発行日 R 7 . 9 . 1 (月)

私の進学先選び

その 1 : 学部・学科・専門領域という視点をもつ。

生徒の皆さんも大学や専門学校等の選択にはいろいろと思いを巡らせていることでしょう。私自身も、どのような選択がベストかは、時間と共に変化するものかとも思っているところです。まして皆さんのように人間としての成長著しい時期にあっては尚のことだと思えます。ここでは、大学・専門学校等の中身選択の視点をまず考えてみました。(言い換えると、大学・専門学校等を選ぶ前に学部・学科・専門領域を選ぶ視点)

1) 自分がこれまで最も好きであった分野を選ぶ。

2) 何らかの情報を得た後から、研究してみたいと思うようになった分野を選ぶ。

3) 好き嫌いにかかわらず、自分がこれまで最も良い成績を収めた学問分野を選ぶ。

順序的に考えていくなら、上記のように学部・学科・専門領域を考えて、次にその学部・学科を持つ大学等を選ぶこととなりますが、最初から大学等を決めてから次に 1) ～3) のようにその大学等の中でも興味ある学部・学科・専門領域を選ぶという方法ももちろんあります。

遠い過去、私自身単純に男子で工業立国日本だからというだけで工学部化学科を選んだのは間違いだったかも、と今では思っています。そして、あまり関心のなかった化学だったので、授業にも熱意はなく漫然とした毎日を過ごしていました。もちろんこのことは皆さんに紹介できたものではなく、こうなって欲しくないのであえて書きました。

その 2 : 特に大学は研究機関であるという視点をもつ。

学部・学科は非常に幅の広いことが一つの特徴です。先ほど私は化学には興味がなかったと言いましたが、現在はその逆で、CO₂を分解する方法を見つける人が出てきたらどんなにかうれしい發明だろうと楽しみにしています。数知れぬ温暖化対策の研究がなされており、例えば地中にCO₂を埋め込んでみたり、光合成能力の高い海草でCO₂を吸収させる実験に高校生が取り組んだりもしています。また日本では潮力発電に力を入れていようです。また、なにも理系だけでなくの研究をしているものでもなく、文系に関する私が感銘を受けたものとして、シェイクスピアのハムレット中の台詞「to be or not to be」をどのように訳すことが正しいのか？は、現在でも世界的難問として存在しています。こういったことを追求する大学は、最大の研究機関であることを忘れてはならないと思います。

その 3 : 大学・学部・学科・専門領域の特徴を徹底的に調査する。

調査の仕方はいろいろありますが、私なら大学・専門学校については学校案内パンフレットを取り寄せて調べるし、学部・学科・専門領域についてはインターネットの学部・学科等のHPを調べます。例えば大きな総合大学ならば独自の海外留学制度を持ち留学支援金制度や無料英会話教室等も充実しています。また、インターネットで調べて欲しいのは学部・学科に所属する教員のHPです。中でも研究履歴に注目してください。優れた研究者は必ず大きな研究団体が出版する「学会誌」への掲載履歴があるはずです。大きな研究団体とは「日本○○学会」といった冠に日本という文字が付いていることが多いです。特にここでは教員の研究領域を調べることで、当該教員がどのような分野に秀でているかわかります。いろんな大学に在籍する研究者の講義を目指して大学受験をしてくる生徒も全国的に見ると意外と多いものです。

その 4 : 最後に最も私が言いたいこと。

進路については自分自身の考え方をもってスタートしますが、なぜその進路なのかを保護者や担任の先生・進路指導部の先生方と十分に話し合って進路を決めていくスタイルは最も大切なことです。できるだけ早くうちから進路のことについては保護者との話し合いをして欲しいです。(英語科永田)